

初の高校日本一

新たな歴史刻む 十文字高校サッカー一部

号外

発行 (平成29年1月)
学校法人 十文字学園

表彰式後、応援団席に向かって喜びを爆発させるイレブンは



11度目の挑戦 悲願達成 橋本校長 「文武両道、本校の誇り」

サッカーの全日本高校女子選手権決勝戦が1月8日、神戸市のノエビアスタジアム神戸で行われ、十文字高校が大商学園高校(大阪)を1-0で下し、挑戦11度目にして初めての優勝を勝ち取った。サッカー部初の全国制覇で、学園に新たな歴史を刻んだ。

前半から押し気味に試合を進めた。0-0で迎えた後半16分、縦パスを受けたキャプテン村上真帆(3年)がロングシュートを放ち、ゴール左上に先制弾。大商学園の猛反撃を全員で守り切り、栄冠を手にした。

ゴールの瞬間、応援スタンドは歓喜に包まれた。その後、折る思いで応援し続け、アディショナルタイム2分が経過し主審の笛が響くと再び歓喜の輪が広がった。

応援団席で試合を見守った橋本ヒロ子校長は「雨にも風にも雪にも負けず頑張った成果です。文武両道の彼女たちは本校の誇りです」と選手たちにエールを送った。

村上真帆主将の話

たくさんの応援、ありがとうございます。嬉しい時間帯もありました。

石山隆之監督の話

同好会の9人からスタートした、創部21年目。過去4回は、準決勝の壁を乗り越えられなかったのですが、今回、悲願の全日本高校女子サッカー選手権大会を優勝することができました。



試合終了の笛が響き初優勝が決まり、喜びにわくわくする応援団席

スタンドから、高校から大声援

初の全国制覇が決まると応援団席は歓喜の嵐に包まれた。サッカー部、バトン部に加え、早朝に巣鴨をバス3台で出発した生徒や保護者、教職員が応援団席に陣取り、大応援団の大商学園に負けない声援を送り続けた。

決勝会場に行けなかった在校生、教職員ら約100名も高校の多目的ホールに設置された大型スクリーンの前で声を枯らして応援。創部から支援してきた十文字一夫理事長も快挙に涙を浮かべ喜んだ。